

令和7年度 学校経営方針

北九州市立大谷小学校

校長 森友 征和

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、失敗を恐れず挑戦する児童の育成

2 本年度の重点

【目指す子ども像】

- ㊦**もいやりのある子：(基本的な生活習慣を身に付け、ともに生きることを大切にし、感謝の心をもつ子ども)
- ㊧**ちついて考える子：(自分のめあてを確かにし夢中で問い、つないで考え、活動し表現する子ども)
- ㊨**くましく元気な子：(元気に過ごし、失敗を恐れず挑戦する子ども)
- ㊩**んたいづよい子：(最後まであきらめず取り組み、やり遂げる責任感の強い子ども)



【本年度の重点目標】 『「こどもまんなか」で質の高い教育の充実』

- ① 児童及び教職員が安全かつ安心して過ごせる居心地のよい学校づくり
- ② 誰一人取り残さない教育を実践し、子どもが失敗を恐れず挑戦できる環境づくり
- ③ 業務改善に進んで取り組む学校づくり



【目指す学校像】

- 「こどもまんなか」の学校
- 子どもや保護者、地域から信頼される学校
- いつもきれいな学校
- 進んであいさつできる明るい学校
- 研究心にあふれ活力みなぎる学校

【目指す教師像】

- いつも笑顔で子どもと接する教師
- アイデアを出し合い、協働できる教師
- 子ども・保護者・地域との関わりを深め、信頼と期待に応える教師
- 授業の創造と評価の工夫・改善に努め、子ども一人一人の可能性を伸ばす教師
- 課題を的確に捉え、研鑽を積む教師

3 本年度の重点項目

- ① チーム大谷小として誰もが安全かつ安心して過ごせる居心地のよい学校づくりを行う。
 - 子どもの意見を学校運営に生かす。
 - 児童一人一人の特性に応じた指導を行う。誰一人取り残さないことを意識し、「居場所づくり」と「絆づくり」を行っていく。
 - 教科担任制を活かし、チームで学校運営に参画する。また、児童だけでなく、教職員も一人で悩むことがないように、低中高の学年の連携や7年生との連携など積極的に行う。
 - これまで「幼児教育連携推進事業モデル小学校区」として、第二明泉寺幼稚園、天籟寺保育所とともにやってきた、不安なく「つなぐ」取組を継続できるようにする。

- 中学校に「つなぐ」ため9年間を見通して、中学校区で「時間を守る そうじを丁寧に
う あいさつを積極的に行う」の共通の目標達成を図る。
- ② 誰一人取り残さない学びと先端的な学びを進める。
 - 「聴くこと」に対して組織的かつ発達段階に応じた系統的な指導を実践する。
 - 学び合いや主体性を引き出す授業改善、自ら問いを見付け解決していく探究的な学びを推進する。
 - 家庭学習の充実に関して、保護者や地域と連携し、大谷こども教室にて啓発していく。
 - 教職員の資質向上のため、水曜日の研修日の充実を図る。
 - 子どもが失敗を恐れず挑戦できる環境づくりを行うために、友達の成功や失敗を認め合える学級環境を育成する。
- ③ 業務改善に取り組み、働きがいがあり、働きやすい職場づくりを目指す。
 - 仕事の精選を行い、業務改善に対する意識改革を行う。
 - 網紀肅正研修を計画的、日常的かつ適時実施する。
 - 日常的な校内点検を行い、何かの変化にすぐに気付きすぐに対応する組織づくりを行う。
㊟最悪の事態を想定し、㊤慎重に、㊦素早く、㊧誠意をもって、㊨組織で対応
 - 勤務時間外における在校時間を減らすことができるよう働き方を組織として考えていく。

4 具体的な取組

- ① 児童、教職員ともに誰一人取り残さない教育の推進
 - 子どもを枠にはめず、違いを尊重できる生徒指導を行う。特に不登校児童に対しては、寄り添い、社会的自立を目指し、その児童にとって最善の対応を行う。
 - 「北九州ステップアップメソッド」(コグトレ)や「北九州子どもつながりプログラム」の活用を推進する。
 - 児童・教職員全員がひたむきに活動する「もくもく掃除」の取組を行う。自学ノート・給食時間の話・休み時間に遊ぶなど、学習指導以外での児童とのつながりを大切にする。
 - 規範意識を高めるため、きまりを守ることを教える。また、なぜそのきまりがあるのかなどもきちんと説明する。
 - 開かれた学校づくりの一つとして、地域の教育力(人材・施設など)を学校教育に生かせるよう、学校だより・学校ホームページなどを通して情報共有に努め、理解と協力を得られるようにする。
- ② 基礎的・基本的な内容の確実な定着と学力向上・家庭学習の充実
 - 学校にいくことが楽しくなるような授業を行う。そのためにわかる喜びや達成感のある指導の展開を図る。
 - 大谷こども教室、ひまわり学習塾や家庭学習を通して、児童一人一人の学習に対する意欲と基礎学力の向上を目指す。
 - 学習の場面で、積極的に ICT を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
 - 体験的な学習や問題解決的な学習をできるだけ取り入れた授業の展開に努める。
 - 校内研修、若年研修の充実に努め、資質・能力等、教師力の向上を図る。
- ③ 業務改善、ワークライフバランスの充実
 - 学年・学級相互に連携を保ちながら、よりよい学年・学級・教科等の経営を行う。そのために、それぞれが打合せの時間を定例的に確保する。
 - データの共有化、行事や会議の精選を図る。
 - 全職員、時間外勤務月30時間以内を目指す。
 - 業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、業務改善の実践を進める。
 - 生徒指導事案が発生した場合は、即対応、即日解決する。ミドルリーダーや7年生を活用する。
 - 平日年休取得の推進に努める。